

行雲流水

KASHIWAGI, Wataru / 柏木, 航

(出版者 / Publisher)

法政大学大学院デザイン工学研究科

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Bulletin of graduate studies. Art and Technology / 法政大学大学院紀要. デザイン工学研究科編

(巻 / Volume)

12

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

2023-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030194>

行雲流水

floating with the tide

柏木航

Wataru KASHIWAGI

主査 小堀哲夫

副査 高村雅彦

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻修士課程

The environment and landscape of Ishigaki Island is being destroyed by tourism. We will investigate and solve the structure of this problem. Propose architectural spaces that focus on the materials of the island.

Key Words : vernacular, material

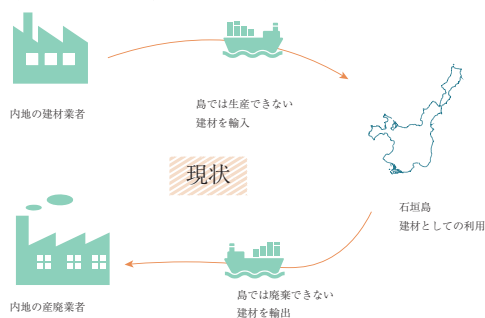
01. プロローグ

現代の地方郊外は、全国的に均質で機能主義的な開発が行われている。その開発は独特の文化が色濃く残っている沖縄でも影響を及ぼしている。

本提案ではそんな開発に対して、地域固有的な建築活動を面的に誘因するようなきっかけを作るための拠点を作ることを目的としている。

02. 調査

その現状を解像度高く捉えるために日本で最も南西に位置する都市である石垣島の建設現場で7ヶ月の建築現場の体験とフィールドワーク調査を行った。島は観光で外貨を獲得していて、生計を立てている人が多くいる。観光業における建築はブームやフォトジェニックであることを主眼としているので、インスタントで煌びやかな空間が多く生み出されているが、数年で収益性が低い陳腐な空間と判断され、解体される。



風景が変質してきていること、石垣島に沖縄の古来の風景が残っていることを風景記としてまとめる。どういった風景が石垣島の本来の風景でどういった

風景が観光地化によって生み出された空間なのか。一つ一つランゲージ化し、評価していく。



そのランゲージの集合が僕の石垣島風景論となる。この調査の中で発覚したのは、島が潜在的に直面している建築活動におけるごみ問題である。石垣島で建築を立てるには、内地（沖縄を除く日本）から一般的な建材を輸入して建築される。そしてその建築空間は数年のうちに解体されるが、島には内地から送られてきた建材の処理機能がなく、コンテナに詰め込まれ内地に産廃として送り返す。このゴミの処理問題は建設現場では気づきやすいことではあるが、他の職種のの人たちや観光客には気づきようがない状態だった。

そしてその建築活動で生み出された建築は、島本来の空間ではなく、観光客から見た沖縄らしさを追求するあまり石垣島のアイデンティティが失われていく。

島の素材（以後「島材」）を使うことでこれらの問題は解決できるはずだが、使われないさまざまな理由が島民へのヒアリングで発覚した。



赤土



竹



珊瑚石



木材

まずは「島材＝伝統的な建築」という固定概念が形成されていることだ。伝統的な建築は手入れが大変で費用もかかることから敬遠される。

もう一つは島材の安定供給がなされていないことである。島材は島内でも一般流通しておらず入手するには生産している職人とのコネクションを探さなければならない。そういった事情が島材の普及の障壁になっていた。

03. ターニングポイントの提案

そこで、そんな島の建築活動に一石を投じる建築空間を提案する。

そこで重要なのが

- ①問題を知ってもらうこと（啓発）
- ②一定量の資材を貯蔵しておくこと
- ③島の材料の新しい空間の作り方を見せることである。

04. 敷地

敷地の選定方法は二つの要素が中心となる。まず一つは「材料の産地に近いところ」そしてもう一つは、「観光客を含めた多くの人々に目につくところ」である。

以上の条件を整理した上で対象となる敷地を4つピックアップした



05. 設計

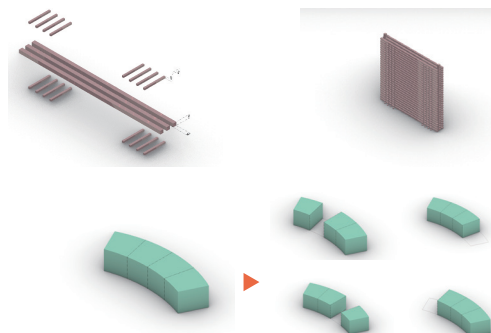
選定した敷地に島材で観光スポットの提案をする。

島の材料を貯蔵しながらそれ自体が主構造として空間を形成するのでその島材が必要になった時に取り出

し、また新しい材料を補填するという建築プロセスが必要になる。そしてその変容が石垣島の風景を表象するような提案をする。

・バナナ公園展望台

このエリアは周辺に木材の関連施設が点在している場所である。円弧状の平面形態で4分割されたユニットで構成されている。ユニット単位で解体と建築が繰り返され空間が作られ続ける式年遷宮のような建築プロセスを採用した。



また、その構造壁には木材を積んだ形態になっていてそれが木材の保存も兼ねている。

・川平公園展望台

この展望台がある川平集落は琉球石灰岩の加工場、珊瑚石を礎石に使用した建築が多く残っている。ここでは珊瑚石を使用した展望台を提案する。

・井野田共同売店

この共同売店は井野田集落の方が運営する集落のコンビニのような建築である。周囲には竹林があり、竹の民具などを作るクリエイターたちが暮らしている。ここでは、石垣島の島の構造である。建築、畑、防風林、海というレイヤーを横断し、身体的に体験できる展望台を提案する。

・玉取崎展望台

この展望台があるのは、小さな山の頂上である。この敷地の周囲には赤土の土壌があり、赤土流出が問題となっている。ここでは、土を使ったワークショップができる登り窯を含めた赤瓦ややちむん（焼き物）の工程を導線上に配置し、赤瓦などのプロダクトができるまでの流れを学べる展望台を提案する。

05. 展望

島の産業として観光地化を進めてきた石垣島。相対的な貧困が社会問題化している石垣島では外貨獲得手段として正当な戦略ではあるが、進め方がスクラップアンドビルドで都会化を目指すという手法が島の自然という島の価値を破壊するというパラドクスが顕在化し始めている。この提案をきっかけに石垣の元来保有していた自然環境の力を最大限発揮する建築空間が普及

するきっかけができるのではないか。島の素材を使用し、観光客を含めた、島に関わる人たちが島の未来について意識することが本当に持続可能な美しい島を作り出すことができるのではないだろうか。

06. 最後に

本研究、設計を行うにあたり、小堀哲夫教授には多くの時間を割いていただき、充実した指導をしていただいたことに感謝申し上げます。また、副査としてご指導いただいた高村雅彦教授ならびに、石垣島でのリサーチに多大なご支援をいただいた、宮良木工所の方々をはじめとする島民の方々には大変貴重な時間を割いていただけたことで本設計を成し遂げることができたと感じております。そして、ともに修士設計を行ってきた大学院の仲間や、アドバイスを下さった先輩や後輩には、本設計のクオリティをあげることのみならず、精神衛生的にも健全に取り組める環境を作ってくださったことを大変感謝いたします。本当にありがとうございました。

<参考文献>

普久原朝充 / 沖縄島建築 / トゥーヴァージンズ

ペーターツムトア / 訳：鈴木仁子 / 建築を考える / みすず書房

嘉数啓 / 島嶼学 / 古金書院